

同志社大学

2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016年 3月 14日提出

所 属	職 名	氏 名
心理学部	教授	青山謙二郎
研 究 題 目	人工甘味料の摂取による体重増加における条件性満腹感消去の役割と肥満防止策の開発	
研 究 成 果 の 概 要	<p>カロリーの無い人工甘味料の摂取によって、かえって体重が増加することがラットを対象とした実験により既に報告されている。その原因として、通常は高カロリーと結びつく甘味を摂取してもカロリーがないことにより、「甘味」と「高カロリー」の連合が消去されることにより、摂食行動のコントロールが乱れることが想定されている。</p> <p>本年度の研究では、カロリーの無い人工甘味料のサッカリンを混ぜたヨーグルトを通常の餌に加えて与えた群（サッカリン群）のラットと、カロリーの高いグルコースを混ぜたヨーグルトを通常の餌に加えて与えた群（グルコース群）のラットを比較した。</p> <p>その結果、先行研究と同様に、サッカリン群のラットの方が、グルコース群よりも体重が重くなった。しかし、自由摂食中の餌とヨーグルトと甘味料を合わせた総摂取カロリー量には差が無かった。また、ヨーグルトを与える期間の終了後に、砂糖の餌ペレットの摂取パターンについても比較したが、これにも差が見られなかった。これらの結果は、Society for the Quantitative Analyses of Behaviorにおいて発表される予定である。</p>	